

ときは水でふやかし、右の写真のような石皿などに載せ、敲石で突き砕いた後、磨石を使って粉にします。最後に灰汁と混ぜ、水場でさらしてアクを抜くと、ようやく食べられる状態になります。こうしてできた木の实の粉は、ヤマノイモなどをつなぎにしてこね、現在の「オヤキ」のような形にして食べたのではないかと考えられます。木の实の粉をパン状、クッキー状にした加工品の炭化物は、東日本の遺跡を中心に相当数が発見されているため、東日本ではかなり一般的な食べ方だったようです。また、焼く以外にも、団子状にしてゆでたり、スープの中で煮込んだりする食べ方もあったと考えられます。



石皿と磨石

木の实が出土した県内の遺跡

沖ノ原遺跡（津南町）… 縄文時代の代表的な遺跡の一つで、植物性の遺物が出土したということもあり、県内でも早くから注目された遺跡です。クリが約1.2kgと最も多く出土しており、クリ以外では、クルミ、ドングリ、トチの実などが検出されています。また、木の实を加工したクッキー状炭化物が出土している点でも貴重な遺跡といえます。

中道遺跡（長岡市）… 火災に遭ったと考えられる住居跡から500粒を超えるトチの実が出土しています。これらのトチの実は、カゴに入れて棚の上で保存していたものが、火災に遭った時に飛び散らずに燃え落ちたものと考えられています。

大武遺跡（和島村）… 写真で示したように、谷の斜面にある直径、深さとも約30cmの貯蔵穴の中にクルミの実だけが密に詰まった状態で出土しました。クルミの実だけが詰まった貯蔵穴は、全国的に見ても珍しく、貴重な事例といえます。

青田遺跡（加治川村）… 現在も調査中の遺跡ですが、発掘された川岸からは、トチやクリの皮が大量に出土しています。これらは、実を取り出す作業を集中的に行った後に捨てられたものと考えられます。クリの中には、横幅が4～5cmもあり、現代の栽培種の大きさに匹敵するものが多数含まれています。クリは柱などの建築材にも多用されていることから、クリを重視した縄文人の生活を窺うことができます。



大武遺跡のクルミ貯蔵穴



青田遺跡で出土したクリの皮

引用・参考文献

- 『縄文カタログ くらしと道具』（財）滋賀県文化財保護協会 1997
- 『縄文の生活誌 旧石器時代～縄文時代』岡村道雄著 講談社 2000
- 『沖ノ原遺跡発掘調査報告書』津南町教育委員会 1977
- 『中道遺跡 第2次発掘調査概報』長岡市教育委員会 1996